

1. 感染症速報（彦岐地区）

令和7年8月29日作成

2025年 第34週 8月18日 ～ 8月24日

作成：長崎県彦岐保健所 企画保健課

疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	😊	RSウイルス 感染症	😊	咽頭結膜熱	😊	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	😊	急性呼吸器 感染症(ARI)	😊
警報:開始30 終息10	0.00	警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始3 終息1	0.00	警報:開始8 終息4	0.00	警報:開始 - 終息 -	37.67
感染性胃腸炎	😊	水痘	😊	手足口病	😊	伝染性紅斑 (りんご病)	😡	※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI)	
警報:開始20 終息12	1.50	警報:開始2 終息1	0.00	警報:開始5 終息2	0.00	警報:開始2 終息1	2.50	※定点数2:上記以外の疾患	
突発性発しん	😊	ヘルパンギーナ	😊	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	😊	新型コロナウイルス 感染症	😊	※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道 炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又 は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す 病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、 新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど も含まれ、報告数は重複します。	
警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始 - 終息 -	16.67		
😊	発生報告 なし	😊	少数の発生あり	😡	流行に注意 【注意報レベル】	😡	流行中 【警報レベル】		

※警報レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフル:10 水痘:1 その他は設定なし。

2. トピックス

★伝染性紅斑（りんご病）が流行しています！

彦岐管内では、2025年第34週の定点当たり報告数が、**警報レベル開始基準値「2.0」**を超える**「2.5」**となっており、感染予防に努めましょう。

県内においても、第34週の報告数は91人で定点当たり報告数は2.94となり、現在の調査方法になった1999年以降最多となりました。第32週に警報レベル開始基準値「2.0」を超え、3週続けて警報レベルの報告数となっています。

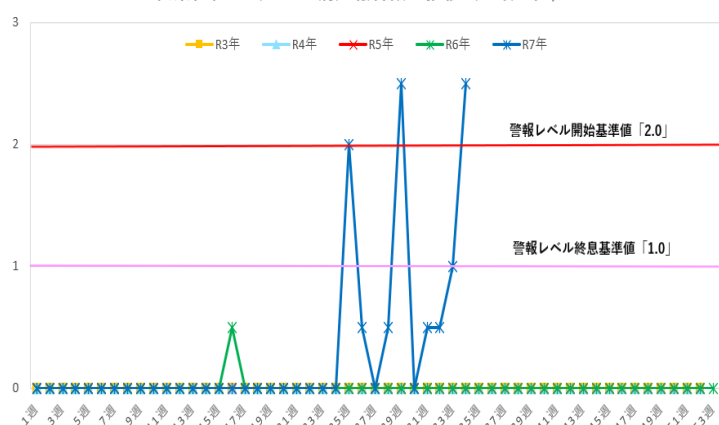
地区別では、県央地区（6.60）、佐世保地区（5.25）、西彼地区（3.00）、県南地区（2.67）、彦岐地区（2.50）、長崎地区（2.33）は、警報レベルの報告数となっています。

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

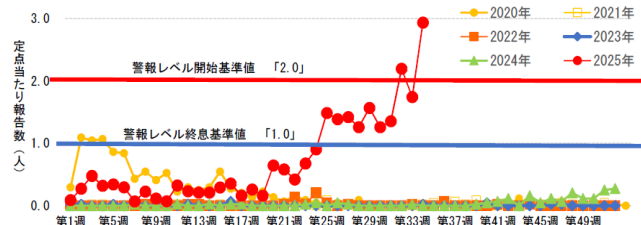
感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるとわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

（参考）厚生労働省 伝染性紅斑

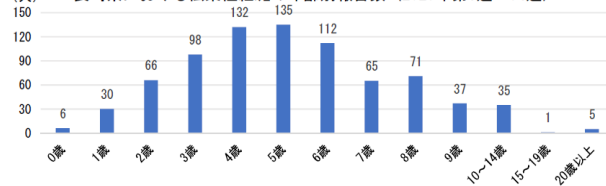
伝染性紅斑（りんご病）報告数の推移（彦岐地区）



長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



長崎県における伝染性紅斑の年齢別報告数（2025年第1週～34週）



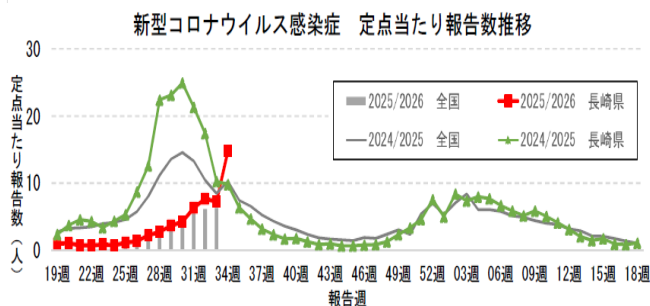
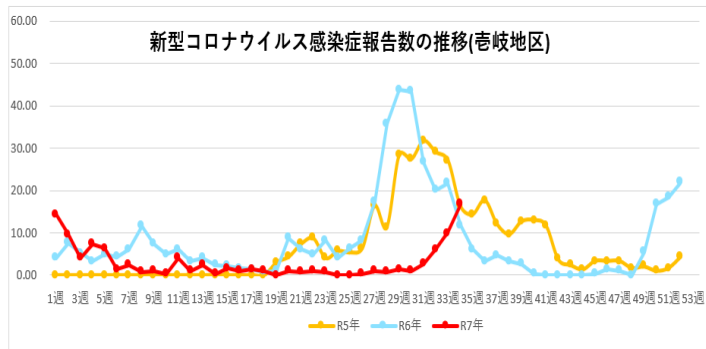
★新型コロナウイルス感染症が流行しています！

彦岐地区における定点当たり報告数は、第32週：6.00、第33週：10.00、第34週：16.67と増加してきていますので、注意しましょう。

長崎県における第34週の定点当たり報告数は「14.78」でした。地区別では、対馬地区（27.67）、県北地区（27.00）、上五島地区（21.00）が多くなっています。年代別にみると、10歳未満（16.4%）、60代（14.9%）が多くなっています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

※詳細は、長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」をご覧ください。



★麻しんに注意しましょう

第34週時点での県内の発生報告はありませんが、福岡県では第33週時点までにおいて、令和7年8月以降、5例の麻しん患者が確認されており、今後更なる感染拡大が懸念され、注意が必要です。

麻しんとは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、①発熱、②全身の発しん、③咳、鼻水、目の充血などが主な症状です。

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染し、その感染力は非常に強いと言われています。感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人程度の割合で脳炎が発症します。稀に(10万人に1人程度)、麻しんウイルスに感染後、数年から十数年後に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる知的障害や運動障害などが進行した後、数年以内に死に至る中枢神経疾患を発症することもあります。

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接種(ワクチン接種)を行うことによって、95%以上の人が免疫を獲得することができるとされています。定期接種対象者、医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種をご検討ください。

(参考)麻しんについて(厚生労働省)

(参考)福岡県麻しん発生状況

★マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

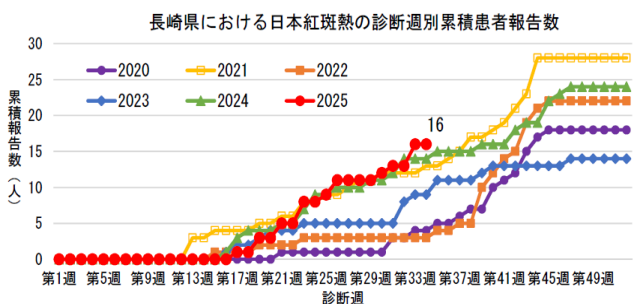
マダニ類が媒介する日本紅斑熱は、発熱・発疹が主な症状で、ダニの刺し口が多くの患者で認められます。県内では2025年第34週までに16件の報告があり、過去5年の同時期と比較して、多く報告があがっています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (5)	6 (2)	6 (8)	13 (9)	13 (11)	9
日本紅斑熱	18 (4)	28 (13)	22 (3)	14 (9)	23 (14)	16
つつが虫病	11 (0)	14 (3)	7 (0)	15 (5)	11 (1)	0

※()は第34週までの発生件数



9月1日～9月30日は「健康増進普及月間」
9月～11月は「健康増進強化期間」

【統一標語】 1に運動 2に食事 しっかり禁煙 良い睡眠

～健康寿命の延伸～

生活習慣病は日常生活の在り方と深く関連しており、健康の保持・増進を図るには、運動習慣の定着や食生活の改善といった健康的な生活習慣の確立が重要になります。
このため、生活習慣病の特性や運動・食事・禁煙など個人の生活習慣の改善の重要性について一人ひとりの理解を深め、健康づくりに取り組んでいきましょう！

今より+10分運動

+1皿の野菜

減塩

禁煙・受動喫煙

質のよい睡眠を

